



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度「教養の森」科目群【科目群1】」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	経済学の考え方		
担当教員	阿部 秀二郎		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	月 5	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	教育学部・システム工学部・観光学部・全学年		
科目名 (英語表記)	Invitations to Economics		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	<p>「経済学を学ぶ目的は、経済問題について一連のでき合いの答えを得るためではなく、いかに経済学者にだまされないようにするかを習得するためである」と述べた英国の経済学者J. ロビンソンによって、この講義のタイトルと同じ本が出版されたのは1962年でした。経済学の「専門化」を皮肉ったとも思えるこの言葉以来もう50年が過ぎようとしています。それにも拘わらず、経済学はその分析対象と分析方法を広げ進化させながら重要性を増し続けています。他方でさまざまな問題が処理できないままに至っている現在もロビンソンのことは間違いとは言えないようです。どの学問もそうですが、storyに基づいて、概説を行うのが最も興味深く学習できる方法だと思います。この講義でも経済学のHistoryを紹介することで、一見すると複雑で難解に見える「経済学」について、骨格となる幾つかの考え方を出来るだけわかり易く説明していくことにします。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	オリエンテーション：概説、目的、成績評価など	
	2	経済学の方法（物理科学との関連）	
	3	経済学の方法（生物学との関連）	
	4	経済学の方法（地質学・歴史学との関連）	
	5	経済学のはじまり 1	
	6	経済学のはじまり 2	
	7	科学と経済1（自由か設計か）	
	8	科学の経済2（自由か設計か）	
	9	経済学と貧困 1（正規雇用と非正規雇用）	
	10	経済学と貧困 2（構造的問題）	
	11	中間試験と解説	
	12	教育と経済学	
	13	法律と経済学	
	14	幸福と経済学	
	15	まとめ	
到達目標	到達目標としては、新聞の経済面（又は日経新聞）のニュースや解説が、如何なる経済学者の考え方にもとづいたオピニオンであるかを読み取る能力、それについて批判的に議論していく能力を磨くことを目指します。		
成績評価方法	中間試験とレポートで評価します。		

教科書	ありません
参考書	橘木俊詔『課題解明の経済学史』朝日新聞出版 ISBN 978-4-02-331014-8
履修上の注意・メッセージ	どのような学問に対しても、経済学は重要な示唆を与えることとなります。そしてそれは人間本性とも複雑に関連しています。経済学を身近に感じることで、人間自身もより深く認識できることになると考えています。積極的に参加してください。利益は大きいはずです。
授業時間外学習	毎回予習問題を提示いたします。その予習問題について授業までに準備をしていただきます。授業終了後には、その授業内容に関連した小レポートを貸します。

